

発信 地域から



室蘭

海を越える介護人材

北斗文化学園の挑戦

① ミャンマー若者育成に力

「柄がきれい」。昨年11月、室蘭市の学校法人「北斗文化学園」が運営する北海道福祉教育専門学校の学校祭で、来場者はミャンマーからの留学生手作り刺しゅう入りハンカチなどを買い求めた。留学生は民族衣装「ロンジー」をまとい、来場者を楽しませた。

日本語で合唱

留学生は、1カ月前に日本語教育課程6カ月コースに入學したばかり。同課程のベトナム人留学生とともに、日本語で「涙そうそう」の合唱も披露。勉学に懸命に励む姿がにじむ滑らかな発音に惜し



11月10日

学校祭で母国の民族衣装「ロンジー」の着用体験などを企画したミャンマー人留学生ら。2024年

みない拍手が送られた。彼女は今春、介護福祉士などの資格が取得できる自立支援介護福祉学科などに進み、2年後の就労を目指す。

国内で深刻化する介護業界の人手不足を背景に、国は2017年に介護現場での外国人の就労

を解禁。同学園も外国人材の育成に乗り出し、19年度に初めてベトナム人12人を受け入れた。日本語教育も自前で行うため、20年に日本語教育課程を設置。一定期間働けば学費や生活費などが返済免除となる、就労

予定先の奨学金制度などを活用し、23年度未までに20人が自立支援介護福祉学科を卒業。大半が胆振管内で活躍している。

「最先端学ぶ」

また、21年のクイデータで軍事政権が誕生した結果、国外に就労先を求めめる若者も増えている。同学園は同国の入学者を募集し、昨年10月に初めて留学生を受け入れ、現在6カ月コース在籍の34人のうち25人を占める。

ており、「日本の最先端の介護技術を学びたい」と意欲を見せる。同学園は、次の取り組みとして今年1月、同国最大都市のヤンゴンで、介護の基礎を学ぶ日本の公的資格「介護職員初任者研修」の取得講座を国外で初めて開講。受講生は同国内で1カ月間学んだ後、日本の入国ビザを取得し、室蘭で約1カ月実践的研修を受けることで資格を取得でき、さらに早く「即戦力」を養成することができるとしている。

同学園はさらに、今後の人材確保先として、急激

に、今後の人材確保先として、急激に、今後の人材確保先として、急激

に、今後の人材確保先として、急激に、今後の人材確保先として、急激

（室蘭報道部 村上真緒）
3回連載します